きょうの紙面
❷❸ 妖怪豆辞典
❹ 読売の映画情報

妖怪新聞

ようかいしんぶん

読売新聞
特別PR版
発行 読売新聞東京本社
東京都千代田区大手町1-7-1

角川映画

「妖怪大戦争」に特別協力

8月6日、全国映画館で封切り

映画文化を支援する読売新聞は、この夏最大の話題作、角川映画の「妖怪大戦争」（8月6日封切り）に、特別協力しています。妖怪研究の大御所、水木しげると荒俣宏、京極夏彦、宮部みゆきの作家3人がプロデュースチーム「怪」を結成して原案を練り上げた会心作です。古くから日本人と共生してきた妖怪たちに、この夏会いにいきましょう。

魔敵との最終戦はじまる

監督は、「ゼブラーマン」「着信アリ」などのヒット作を手がけ、日本はもとより、海外でも高い評価を集めている三池崇史。主題歌「愛を謳おう」と挿入歌「教えてジイジ」は、妖怪「ぬらりひょん」役で映画にも出演している忌野清志郎に加え、井上陽水が参加するという夢のユニットが担当しています。

クライマックス・シーンでは、首都・東京を舞台に、妖怪と魔人・加藤保憲によってよみがえった悪霊軍団「機怪」との壮絶な最終決戦が未曽有のスケールで描かれます。延べ3000人を超えるエキストラによって撮影された圧巻のシーンにコンピューターグラフィック映像が融合し、誰も見たことがない史上空前の冒険劇が繰り広げられます。

麒麟送子

あらすじ

10歳の少年タダシは、両親の離婚により、母親と共に母の故郷・鳥取で暮らしていた。母は仕事で留守にしがち。タダシは最近痴呆が始まった祖父の対応に四苦八苦。そんなある日、タダシはお祭りで大勢の子供の中から《麒麟送子》に選ばれる。麒麟送子とは世界の平和を守る正義の味方で、大天狗の山へ伝説の聖剣を取りに行かなくてはならないという。そして夏休みが始まる。タダシはいじめっ子たちに言われた言葉、「泣き虫タダシには絶対ムリ！」を思い出し、勇気を出して山に入るが、怖くてすぐ逃げ出してしまう。ただかわいい妖怪すねこすりだけは、家に連れて帰る。なぜかすねこすりの姿は大人には見えず、タダシには見えるのだった。

そのころ日本各地で突然子供が消えたり、化け物が人間を襲ったりする事件が多発。それはこの世に恨みをもつ悪霊たちの仕業だった。黒幕は古代先住民族の怨念が蘇った魔人・加藤保憲。加藤は人間に捨てられた機械など廃棄物の怨念と、日本古来の妖怪たちとを無理やり混ぜ合わせ、新種の悪霊《機怪》を作り出していた。数日後タダシは再び大天狗の山に登り妖怪たちに出くわす。彼を誘い出したのは妖怪・猩猩だった。最初はおじけづくタダシだったが次第に心を開き、彼らに悪意がないことを知る。猩猩は世界の平和をかけて川姫、川太郎、小豆洗いたちと共に、麒麟送子のタダシと力を合わせ悪霊軍団に戦いを挑むのだった。それに呼応して、日本全国からたくさんの妖怪たちが東京に集結。その数は、なんと120万匹！

果たして麒麟送子と日本妖怪たちは、加藤の計画をつぶすことができるのか。東京に、日本に、そして世界に、未曽有の大混乱が巻き起ころうとしていた…。

魔人・加藤

4面に割引鑑賞券

読売新聞のご購読お申し込みはお近くのYC（読売新聞販売店）または右記へ 0120-4343-81